

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
33

振興協議会だより

〔発行日〕平成30年10月29日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



福祉施設交流会で歩いた苗場山麓ジオパーク



9月14日、津南のすみれ工房・中里の工房なかさと・松代のしづみの家の皆様が初秋の苗場山麓を笑顔いっぱい歩きました。中には目の不自由な方や車いすの方も含まれていました。3施設の交流目的ですので、混合グループ3班を作り、①山伏山の風穴ー龍ヶ窪コース②川の展望台ー石落としコース、③川の展望台ー谷の展望台コースを巡りました。

目の不自由な方にどのようにジオパークを伝えるか？という設問から、風と水を体感頂くことで①のコースに参加いただきました。冷風と冷水、そして散歩中いくつか形の異なる植物の葉を触って頂きました。車椅子の方々は、②コースに参加頂きました。石落としでは、途中まで車椅子用道路

が整備されていますが、肝心な見学地点までは車椅子が容易に行くことが出来ませんでした。実践から学ぶことの大切さを噛みしめ、様々な立場の方々がいつでも気軽に立ち寄れるサイト整備を心がけ、これから改善したいと意欲を強くしました。



「大地のヨガ」

少し霧がかかった津南の河岸段丘を見下ろしながらヨガで自然と心がつながる。

9月9日にジオサイトでもある「川の展望台」と「石落とし」で「大地のヨガ」を初めて開催しました。町民の方をはじめ、南魚沼市や遠くは新潟市の方の参加もありました。講師は本場インドでヨガを学び、新潟市で活動している亀倉桃野さん。ヨガを始める前に河岸段丘や龍ヶ窪を中心に苗場山麓ジオパークについて話し、この空間でヨガをする価値を参加者から認識してもらいました。普段はスタジオ等でヨガをしていることが多いですが、清い空気を吸い込み、風を感じ、葉や虫の音を聴くことのできる特別な空間と時間になりました。参加者からは「大自然の中でのヨガは初めて。空気が身体に染み入るようで気持ちよかった。」などの意見が聞かれました。

苗場山麓ジオパークを背景とした津南町と栄村にこれからの可能性を感じることでできる機会となりました。今回、行った2つのジオサイトの他にもまだまだたくさんのジオサイトがあり、歴史もあります。苗場山麓ジオパークのパワーを感じ郷土に誇りを持つ人もファンになる人も必ずいます。子どもたちをはじめとする多くの方々に苗場山麓ジオパークのパワーを感じてもらえるような企画を地域全体で考えていけたらと感じました。（NPO法人Tap 江村大輔）





スポーツの秋 トレッキングコース簡易開通と歩けあるけ大会

ジオパーク推進室では、中津川左岸の石坂―穴藤―高野山―結東―前倉―烏甲牧場―矢櫃―大秋山―屋敷―切明を結ぶトレッキングコースを2022年までに旧道を利用して開通したいと計画しています。その第1期事業としての石坂―百合窪村跡―龍辰峰―穴藤の峰が簡易開通したことで、旧道と結び穴藤集落に下り、穴藤橋を渡り、見玉集落まで歩ける総延長約6km、徒歩で約3時間のトレッキングコースが新しく生まれました。簡易的な開通ですが、眺望の良い素晴らしいアクティビティを提供できることになりました。今後、観光資源として、後追いの整備ができることを期待しています。



津南町 町民歩けあるけ大会

さて、この度10月8日に津南町役場福祉保健課が主催した「第37回町民歩けあるけ大会」のコースの一部に龍辰峰から穴藤の峰を経由して穴藤集落―見玉集落のコースが採用されました。大会当日は70名と多くの方からの参加があり、参加者からは「途中険しい道もあったが、見晴らしも良くいいコースでした。」「普段歩くことのできない道を

歩いて楽しかった。」「後半の下り坂がもう少し整備されるとありがたかった。」などの声が聞かれました。

栄村でも毎年、教育委員会が主催する歩けあるけ大会が開催されています。昨年度より、コース中にあるジオサイトに看板を置くなど、イベントと連携をしています。今年は、新しく開通したトレッキングルートを使用してはいませんが、「中野のガラス質安山岩の露頭」を4kmコースの折り返し地点とし、そこで露頭の説明を行い、石器を作る様子をパフォーマンスするなど、ジオを身近に感じてもらう取り組みを行いました。

集落歩きやトレッキングなどのイベントとの連携をこれからも続け、住民の皆さんにジオをもっと身近に感じてもらえるように活動を行っていきます。



栄村 歩けあるけ大会



第9回 日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会(北海道様似町)に参加して

開催日である10月6日～8日の期間に台風25号が通過することで開催が心配されましたが、全国各地からジオパーク関係者約900人が約4400人の小さな町に押しかけました。例年通り、手厚い歓迎の開会セレモニーにはアイヌ伝統舞踊保存会による素晴らしい「古舞踊」が披露され、圧巻の感動が会場を埋め、大きな拍手から大会の幕が落とされました。

ニコラス・ゾウロス氏による基調講演では「素晴らしい自然環境と歴史文化を次世代に残し続けるプログラムとしてのジオパーク活動の重要性」が力強く、会場に響きました。

また、8つの分科会が用意され、活発な議論が展開されました。筆者が参加した分科会は「SDGsから考えるジオパークと持続可能な社会」でした。この事業は2030年までに「素晴らしいでっかいゴールに到達するため」のユネスコプログラムであり、「次世代に負債を残さず、今の世代の満足・幸せを満たすこと」を目標にしています。

SDGsは17のカテゴリーを総合連携する柔らかな思考の形成と瞬発力ある実践を進める行動規範です。その設問では「2030年に振り返りジオパークをやって良かった!」と思えることはあるのか?何か?というものでありました。驚くことにガイドさんや一般役所職員から「素晴らしい地域資源が保存された」「地域資源を誇りに思い人口減少は緩やかに推移した」「ジオパーク活動をしていない過疎地は減っている」「全国の過疎地がすべてジオパーク活動を推進している」など、郷土学習の重要性と地域資源の保全利活用に可能性を持ち前向きな考えが吐露されました。



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

滝沢義人さん



信濃川を望む場所（ガイド No.3 滝沢義人）

僕が1番気に入っている場所は昨年できた川の展望台です。

川の展望台は、元マウンテンパーク津南スキー場のリフト架台があった場所です。かつての津南スキー場は日本一狭く急で、このスキー場で滑れば、どこへ行っても滑れると言われた場所でした。僕は冬のスキーシーズンには毎年行き、その急斜面を楽しんでいましたが、リフトが架け替えられてからはスキー場に立ち入る機会がありませんでした。展望台として整備され、どなたでも行くことが出来るようになりましたので是非とも足を運んで下さい。



川の展望台から見える景色

僕のおすすめポイントは標高によって見える風景・地形の感じ方が違うことです。津南町に住んでいれば大割野周辺は誰でも知っているところですが、上から眺めてみるとまた新鮮で新たな発見がいつもあり驚かされます。

川の展望台、マウンテンパークロッジ、空の展望台と、標高や方向が違う展望台から見る景観もまた一興です。ぜひ一度楽しんで下さいね。それぞれの高度が上がると、見えてくるものが違ってくると思いますので、車を停めて是非とも感じて下さい。日本海側の景観が見える場所もあります。苗場山麓の方向と見えるものも違い、それもよいと思います。

川の展望台から一望できる河岸段丘は中津川によって、およそ43万年前から形成され、何段もの階段状の地形が残されている日本有数の河岸段丘です。40数万年前の古い時代の扇状地が段丘として見ることも特徴です。段丘面に苗場山の溶岩が堆積し、隆起活動と氷期と間氷期による中津川に流れる水の量によって移動しながら浸食活動が繰り返された結果、何段にも大別される河岸段丘が形成されました。信濃川の

川底から最上面までの高度差は約450m、10段の面があり、43万年前から1万年前に形成されました。

もう一つ、信濃川がよく見える展望場所があります。それは今井城跡です。信濃川はまっすぐに流れているような気がしていますが、今井城跡から川を見ると、曲って流れている様子が良く分かります。今井城は、段丘の先端に築かれた中世の山城で、眼下の敵の動きを監視するのには絶好の場所にありました。

ぜひ一度、信濃川の両側から川を見比べてみてください。面白い発見があるかもしれません。



今井城跡から見える景色



新ジオサイトについて

苗場山麓ジオパークのジオサイトは、認定の際、57箇所を設定しました。しかし、ジオパークプログラムのユネスコ正式化に伴い、日本のジオパークでも用語の変更・統一の動きがあります。苗場山麓ジオパークでも新たに、29箇所のジオサイトと地質・地形的背景がある4箇所のエコサイト、4箇所のカルチャーサイトと7箇所のビューポイント10箇所の文化財に見直しと整理、追加を行い、総合案内看板などに記載されていた5つのエリアは削除しました。ジオサイトとなる基準は、論文などが書かれているという科学的裏付けがある事です。よって、これから調査研究が進むと新たにジオサイトになる場所も出てくることでしょう。

今回追加した新たなジオサイトとしては津南町太田新田付近の「笹葉峰の大崩壊」などがあります。そして、これまでジオサイトとしていた「河岸段丘展望地」、「天池」などはビューポイントと変更しています。

今後、ジオサイトの見直しに伴い、看板、インターネットサイト、印刷物の修正を行い、ガイドや子ども達への学習においても伝えていく予定です。次号には一覧表を掲載する予定です。新ジオサイトをよろしくお願いします。



突撃しよう！となりのジオ便り～南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークからこんにちは～



南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークは、苗場山麓ジオパークと同じ長野県にあります。南アルプスをエリアとするため南北に長く、苗場山麓からの距離を測るのはなかなか難しいですが、苗場山麓から南アルプスジオパークの最北端杖突峠までは、車で約4時間ほどかかります。

南アルプスの大部分を作っているのは、大昔の海底に湧いた溶岩や、海底に積もったサンゴやプランクトンの死骸、昔のアジア大陸から海溝に流れ込んだ泥や砂などが固まってできた岩石です。また、大昔の浅い海に暮らしていたアンモナイトや三角貝の化石がでる地層もあります。3,000m級の山々が連なる南アルプスのほとんどが、海由来のものでできているなんてなんだか不思議な話ですよ。

氷期の生き残りや、分布の南限となる生物が多く暮らしているのも南アルプスの特徴です。氷期に南のほうまで広がった氷河を渡って分布を広げたライ

チョウやハイマツは、間氷期になり気候が温暖になると、生き残るために高山に移動しました。標高が高いため緯度の割に寒冷な南アルプスは、このような理由から、ライチョウやハイマツなどの世界の分布南限になっています。南アルプスの中でも仙丈ヶ岳や甲斐駒ヶ岳は、比較的登りやすく（山頂まで片道4時間ほどです！）ライチョウに会えるおすすめの山です。ぜひ、かわいく貴重な彼らに会いに行ってみてください。

南アルプスの長野県側に、まっすぐな谷が南北方向に走っています。断層のずれ動きで砕かれたもろい岩石が、川に削られてまっすぐな谷になったものです。この断層は、関東から九州まで続く長大な断層「中央構造線」で、南アル



ライチョウ



中央構造線 安谷露頭

プスジオパークには、この断層を観察できる露頭がいくつかあります。中央構造線がつくったまっすぐな谷は歩きやすく、古来多くの人々が行き交いました。近世には火伏の神、秋葉神社（静岡県）に詣でるための信仰の道として使われていたため、現在でも「秋葉街道」（現国道152号）と呼ばれています。大鹿村や伊那市長谷に伝わる農村歌舞伎は、この「秋葉街道」沿いに西のほうから伝わったものと言われています。大地と人の営みが深く関わり合っていることがよく分かります。

南アルプスジオパークにはまだまだ、ご紹介しきれない見どころが沢山あります！そんな、遠くて近いお隣のジオパークにぜひぜひ遊びに来てみませんか。